

鳥取県米子市（国内 6 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 12 月 2 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：肉用鶏（約 7.5 万羽）

発生家きん舎の構造：開放鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：平飼い

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は中山間地に位置しており、林に囲まれていた。発生鶏舎の南側は 1 m ほど山の斜面となっている。農場周辺ではトビやカラス類を数羽確認した。
- ② 北部に隣接して川が流れているが、水量は少なくカモ類は確認できなかった。南側約 110m の池において、マガモ 87 羽、コガモ 43 羽、キンクロハジロ 1 羽を確認した。
- ③ 衛生管理区域内には樹木が多数あり、野鳥の巣が 2 個確認された。
- ④ 平飼いの開放鶏舎 16 棟からなり、発生時は全棟で肉用鶏が飼養されていた。鶏舎は築 50 年以上とのこと。

3 通報までの経緯

- ① 発生鶏舎（5 号鶏舎。約 5,000 羽飼養。通報時 36 日齢。）は農場の南端に位置していた。1 鶏舎の通常の死亡羽数は 1～2 羽／日程度であるが、大腸菌症が発生した時は 10～20 羽／日死亡することもあるとのこと。
- ② 11 月 25 日、発生鶏舎で 23 羽の死亡を受けて従業員が解剖したところ、大腸菌症と考えられる病変を認めたため、25～27 日に抗菌薬を投与したとのこと。
- ③ 28 日、発生鶏舎で 167 羽が死亡していたため、クロストリジウム感染症を疑い、別の抗菌薬を投与したとのこと。
- ④ 30 日、発生鶏舎で約 700 羽が死亡していたため、夜 10 時に家畜保健衛生所に連絡。死亡鶏以外は活力良好だったとのこと。
- ⑤ 12 月 1 日朝、家畜保健衛生所が農場への立入り検査を実施し、簡易検査で陽性を確認。
- ⑥ 調査開始時、発生鶏舎の殺処分は終了していた。

4 管理人及び従業員

- ① 3 名の従業員が勤務しており、うち 1 名は特定技能外国人とのこと。
- ② 特定技能外国人を除く 2 名で鶏舎の担当分けを行い、管理を行っているとのこと。特定技能外国人は、給餌皿の移動等の飼養管理の補助を行うとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域は設定されているが、境界を示すロープ等は設置されていなかった。

- ② 衛生管理区域の出入口は2箇所（南側及び北側）あり、立入り禁止の看板が設置されていた。衛生管理区域内に車両が入る際は南側出入口の動力噴霧器で車両消毒を実施しているが、北側出入口から車両が入場する際は、南側出入口で消毒を行った後、公道を通過して北側出入口に行くとのこと。
- ③ 従業員が衛生管理区域に入る際は、事務所で農場専用の作業着、長靴、手袋を着用するとのこと。作業着及び手袋は毎日洗濯をしているとのこと。
- ④ 従業員が各鶏舎に入る際には、鶏舎外で長靴を脱ぎ、鶏舎内前室で各鶏舎専用長靴に履替えた後、消石灰を踏み込み、アルコールで手袋の消毒を行うとのこと。鶏舎間で手袋は交換しないとのこと。
- ⑤ 出荷時又は出荷後に鶏舎に入る外来業者（出荷業者、鶏糞搬出業者）には、衛生管理区域内に入る際の手指消毒や長靴の履替え、専用服の着用について、農場側から依頼しているが、実施状況は確認していないとのこと。鶏舎に入る際の手指消毒や長靴の履替えは実施していないとのこと。
- ⑥ 鶏舎に入らない外来業者（導入業者、飼料業者、敷料業者）のうち、導入業者には、衛生管理区域内に入る際の手指の消毒のみ依頼しているが、飼料業者、敷料業者には手指の消毒や長靴の履替え、専用服の着用について依頼していないとのこと。
- ⑦ 搬入時は農場全体でオールインを実施し、全鶏舎でほぼ同日齢（4日齢程度の差）の鶏が飼養されている。30日齢程度で一部の鶏舎から中抜き、46～48日齢程度で全鶏舎から出荷を行うとのこと。出荷後に除糞や洗浄・消毒を実施し、2週間程度の空舎期間を設けるとのこと。
- ⑧ 死亡鶏は毎朝の巡回時に各鶏舎から集めて、各鶏舎の前室のカゴや段ボールの上に置いたものを、従業員が軽トラで集め、当該農場本社の死亡鶏保管用冷蔵庫に運搬するとのこと。使用する軽トラは、農場から出るときに消毒し、死亡鶏を下ろした後にも洗浄・消毒しているとのこと。
- ⑨ 糞は出荷後に搬出し、北東約150mの共同堆肥場に運搬しているとのこと。
- ⑩ 発生鶏舎では、鶏舎平側のロールカーテンの開閉によって換気を行っており、気温や飼養鶏の日齢に応じて鶏舎内に設置されたファンや、鶏舎妻側の窓や出入口の開閉も行うとのこと。
- ⑪ 11月25日頃から鶏舎内のファンを使い始め、11月下旬は上側のロールカーテンを開けて、妻側の扉や出入口は閉めていたとのこと。
- ⑫ 飼料は閉鎖系のラインを通じて自動給餌を行っており、飼養鶏には未消毒の井戸水を給与しているとのこと。餌こぼれは確認されなかった。
- ⑬ 敷料（おが粉）は、オールインの時期に合わせて搬入し、衛生管理区域内のおが粉置き場に保管しているとのこと。
- ⑭ 重機や機材などの他農場との共用は行っていないとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎周辺でイノシシやネコのものと思われる足跡が確認された。農場内でネコを見ることはないとのこと。何らかの動物による飼養鶏の食害を受けたことがあるとのこと。

- ② 発生鶏舎内でネズミの死骸及び足跡を確認した。殺鼠剤は、空舎期間や幼鶏の時期に前室に散布しているとのこと。
- ③ 鶏舎には網目約 2.5cm の亀甲金網が設置されていたが、5～10cm 程度の穴が多数確認されたほか、鶏舎入口の扉下部に約 5 cm の隙間が確認され、前室から鶏の飼養区画への扉にも約 10cm の隙間が確認された。

7 その他

- ① 11 月下旬は気温の上下が激しく、最低気温が 10 度を下回る日もあったとのこと。
- ② 11 月 21 日に農場内の 4 鶏舎において、合計 2,000 羽を中抜きして別農場に移動させたとのこと。発生鶏舎では中抜きは行っていない。

(以上)